

みょうじょうのことごと

明星神社社務所

ほんの少し前に5月になったと思ったのですが、今日は早や15日で、時間の流れがホントに早いです。最近、流れの速さについていけない感が出てきています。。。

さて、今回の『みょうじょうのことごと』は、5月5日（祝・日）に執り行いました明星神社賛歌『明けの星』奉納・発表式の様子を、お伝えしていきます。本号は前編、今月下旬発行予定の次号で、後編をお伝えします。



『明けの星』奉納式 当日リハーサル風景

【プロローグ：『明けの星』完成までの道のり】

令和6年5月5日（祝・日） 午前10時。

この日、明星神社賛歌『明けの星』は、当神社での奉納・発表式において、初めて公けにされました。

この式をご覧になるために、当日に明星神社にお出でいただいた方は、約150人。明星神社の境内は、今まで見たことのないほどの人々で埋め尽くされました。

当然、明星地区や明和町内の方々が大多数ですが、伊勢や松阪、津、さらには岐阜などの県外からの方も見られました。皆さま、本当にありがとうございます。

明星神社賛歌『明けの星』の奉納への道のりは、明和町明星出身の作曲家 長岡成貢さんが産土神である当神社の歌を作ろうと思い立たれた時から始まりました。

長岡さんは、今までも伊勢神宮や斎王に関連する曲を多数作曲されてきていると同時に、伊勢や地元明星への熱い思いをお持ちの方なのです。

一方、歌には歌詞が必要です。しかし、神社の歌の歌詞ですから、作詞家はどなたでも良いということではありません。日本と日本文化、加えて明星というこの地域に深い知識と思いをお持ちの方でないと、本当に心に響く詞（ことば）を紡ぐことはできません。

そうした条件を考慮のうえ、長岡さんは作詞を千種清美さんに依頼されました。



長岡成貢さん



千種清美さん

千種さんは、三重県の地域誌『伊勢志摩』の編集長をされていましたが、現在は文筆業に就かれていて、伊勢志摩の歴史や風土、伊勢神宮などについて深い造詣をお持ちの方です。

なによりも、現在千種さんは明星にお住まいであり、明星神社は日々の散歩のコースの1つにもなっていて、神社のことも明星のこともよくご存じなのです。この曲の作詞をお願いするのに、これ以上の方はいらっしゃらないと断言できるほど、最適任の方です。

そんな千種さんでも、今回の作詞はかなり苦労されたとおっしゃいます。というのも、曲の出だしの最初の語がなかなか浮かんでこず、かなり悶々とされたとか。

ところが或る日、ふいにその語が脳裏にひらめいたとのことで、この瞬間を千種さんは「降りてきた！」と表現されていました。そのあとは、もう立て板に水の如くに語が湧いてきて、それまでの苦労が嘘のように詞は完成したそうです。

【 明星神社賛歌 『明けの星』 】

作詞：千種清美

風そよぐ 風そよぐ
鎮守の森のうみどり
春には早苗のうすみどり
秋には稲穂のこがねいろ
鳥のさえずり
虫の音よ
鎮守の森のうみどり
星降るや 星降るや
里の空のすがすがし
夕方西にゆうづつが
明け方東にあかぼしが
明るく輝く
星一つ
里の空のすがすがし
明るく輝く
星一つ
鎮守の森のうみどり

さらに凄いのは長岡さんで、千種さんよりこの詞を受け取って1日もかからず曲を仕上げられたのです。

長岡さんによると、歌詞の出だしの「風そよぐ」の詞を見たたん、子供の頃より慣れ親しんだ明星の風景が目の前に一気に拡がり、それにいざなわれるようにメロディーが自然に湧いてきたのだそうです。「詞の持つ世界観のおかげ」と長岡さんはおっしゃっていますが、一流の才能の持ち主はこのような離れ業(!)が出来るのですね。

こうして完成した曲を、私たち明星神社が受け取ったのは、今年の2月末でした。

【どうする？ 明星神社】

明星神社の歌が完成したとの連絡を受け、3月に入ってすぐに、役員全員が社務所に集まり曲を拝聴しました。そして、曲が終わった後、皆沈黙。

しばらくして「いい曲だなぁ」と一人が口火を切り、「でも、凄いものを受け取ってしまったな」と続けました。これは、確かにその場にいた全員の実感でした。

そして、これがきっかけで、皆がそれぞれに自分の思いや考えを口に、ワイワイガヤガヤと議論が始まりました。

「で、どうするのよ、われわれとしては」

「これだけの作品、中途半端なことは出来ないよ」

「せっかく作っていただいたのだから、有効活用しないとな」

「有効活用って、どうやって？ 何かいい考えがあるかい？」

「明星神社賛歌なのだから、神社で発表するのがいいんじゃないですか」

「いやいや、まずは御祭神に奉納でしょう」

「奉納なら、正式な祭祀として、奉納・発表式を行うのがいいと思うが、どうだろう」

このような議論と総代会への提案・承認を経て、『明けの星』の奉納・発表式を行うことが正式に決定したのです。

【準備は続くよ、いつまでも】

3月に入って、長岡さんの帰郷を待つて数回の打合せを行い、今回の奉納・発表式の規模が固まりました。

- | | |
|----------------------|--|
| ・ 正式な祭祀として奉納式を行うこと | ⇒ 宮司さんが祝詞を奏上
進行予定表を作り、宮司さんと進行を打ち合わせる |
| ・ 奉納演奏は、生演奏で行うこと | ⇒ 演奏を依頼する方を手配する |
| ・ きちんとした音響環境を整えること | ⇒ 町内の北村音響さんをお願いする
当日の舞台設定、音響設定を打ち合わせる |
| ・ VTR撮影を行い、記録として残すこと | ⇒ VTR撮影班を手配する
ロケハンを行い、当日の撮影手順を確認する |
| ・ ちゃんとした司会を立てること | ⇒ MC経験のある人を探す
進行打合せと、各ポイントでの投げかけの検討 |
| ・ こどもの日のプレゼントを用意すること | ⇒ お子さん用に、お菓子のお土産を用意
大型連休前なので、早目到手配 |
| ・ めい姫に出席をお願いすること | ⇒ 町に、貸出許可申請を提出 |

こうした準備を、4月中ずっと各役員で手分けをしながら、ひとつずつ進めていったのです。

中でも苦労したのが、式で『明けの星』と一緒に歌ってくれる小学生の皆さんを探すことでした。奉納・発表式には、小学生くらいのお子さんの歌声が欲しいとの長岡さんからの要望から、一緒に歌ってくださるお子さんを探していたのですが、これがなかなか見つからず、あちこちの方をお願いしまくって、やっと8人の明星小学校の生徒さんに固まったのが、なんと本番4日前の5月1日でした。。。

【前日も大忙し、打合せとリハーサルの連続】

式の前日（5月4日）は、午後1時から 音響・撮影スタッフ・司会、さらに長岡さんも参加して、音響の設置と構成・マイク位置の打合せ、続いて撮影アングルの確認、そしてそれまでに発生した変更を反映した進行の打合せなどを約2時間、行いました。

次いで、午後3時からコーラスで参加して下さる明星小学校の生徒さん8名と、長岡さんと歌唱の松島史奈さんも合流してのリハーサルを行いました。

最初はもじもじしていた皆さんですが、長岡さんと松島さんのリードもあって、何回も歌うたびに声が出るようになってきました。最後に、本番でも歌う正殿前で最後のリハーサルを行い、ここでは皆さん大きな声で、きれいなコーラスを聴かせてくれました。この時、時計の針は午後5時を過ぎていました。

さあ、これで長かった準備もすべて無事完了、あとは明日の本番を待つだけに、やっとなったのです。（ホント、長かったぁ〜）



後編につづく



明星小生徒さんたちとのリハーサル風景